

お互いを高め合いながら



今回のキマグレでは、将棋部と文学サークルを取り上げる。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

▶練習に励む部員たち

将棋部

将棋部は毎週火、水、金曜日に約2時間活動しており、2年生6人、1年生5人の計11人が所属している。部員同士で対局し、その対局後に反省点を指摘し合うという形式で活動しており、部員たちは互いに切磋琢磨して技術の上達を目指している。

また将棋部は活動日が比較的少ないため、兼部も可能であるほか勉強に多くの時間を割くこともできる。よって高いレベルで部活と勉強の両立をすることが可能であることも魅力の一つだ。

部長の今中航君(2-2)は将棋部について「顧問の先生はあまり来られないので、自分たち自身で計画を立てて行動している。部員みんなが部活に真剣に取り組んでいるため、とてもやる気のある雰囲気が出ていて

る」と説明した。顧問の谷口幸吉先生は部員たちの印象を「自分たちで将棋を研究し、お互いに高め合っている。彼らからはいつもやる気が感じられる」と話された。

また今中君によると、将棋部の名物部員は片桐晴紀君(2-1)だそう。片桐君を名物部員に選んだ理由は、彼が対局中に自分の考えていることを口に出してしまうからだそう。片桐君はそのころについて「自分がこのように考えていることを話してしまうのは、そうしないと考えると、それが抜けて戦術を立てられなくなってしまうから」と明かした。また彼はマイナーな戦術をよく使い、勝率は4割ほどだそう。

将棋部には全国大会に出場できるレベルの生徒も在籍している。彼らの今後の活躍に期待したい。



文学の楽しさ

文学サークル

文学サークルは3年生2人、2年生3人の計5人で構成されている部活で、活動は不定期だが基本的には週1回程度の頻度で活動している。

現在文学サークルではノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロの『日のなごり』という英語の作品を自分たちで和訳し、それをプロの翻訳家が訳したものと比較するという活動を行っている。

部長の黒川樹君(3-8)はこの部活の魅力について「授業とは違った楽しさを味わえて、なおかつ授業で習ったことを活かすことができる

のが魅力だ。活動と授業とのつながりを感じられる」と笑顔を浮かべた。

また顧問の津布良春輝先生はこの部活の魅力を「授業の限られた時間では文学作品を深く読むことができないが、深く読みたい人もいます。そのような人たちが集まってできたのがこの部活だ。彼らと一緒に学んでいくことは楽しく、これは論語で言うところの『不亦楽乎(また楽しからずや)』である」と説明された。

東鬼祭では、カズオ・イシグロなどの有名な英語作家の書いた本を自分たちで翻訳し、それらの成果をまとめたものを『柑橘花』と名付けて販売するという。

最後に入部を迷っている生徒たちに向けて津布良先生は「みんなのニーズに合わせてさまざまなことをするので、読み物や文学に興味がある人はぜひ入ってほしい」とコメントされた。加えて佐々木里歩さん(3-8)は「この部は敷居が高いと思っっている人もいると思う。でもそのような気持ちに負けずにこの部に入ってきてほしい」と呼びかけた。

▶ディスカッションに取り組む部員たち